

## 授業改善推進プラン < 理 科 >

### ( 理 ) 科における令和4年度授業改善推進プランの検証

#### 取り組みにおける成果と課題

- 1 学年：主体的、対話的で深いまなびの視点で学習活動を行うことが、学力向上につながることを検証する。生徒が GIGA タブレット等の ICT 機器を適宜活用することと、授業を対話的な活動を通して生徒が知識を活用する場にするすることで、学力の向上を図る。
- 2 学年：電子黒板等の活用が増え、資料提示の頻度が増え、発言などの様子から授業に意欲的な生徒が増えてきている。また実験手順の説明の効率化にもつながっている。しかし、前年度の内容の定着が不十分であり、実際に視覚的に学ぶ、実験や映像から復習し、定着させたい。
- 3 学年：タブレットを活用した学習が、定着化しており、さまざまな資料を提示することで、興味関心を高め、知識の定着へと結びついてきている。しかし、一方で前年度の内容の定着が不十分なので、タブレットを活用した家庭学習などで復習し、定着化させる。

### ( 理 ) 科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1 学年：教科の正答率では目標値よりやや低いが、差は5ポイント未満である。内容別では天体の分野が目標値を上回り、植物の発芽条件や水溶液の分析など、条件整理の分野に課題がみられる。また、顕微鏡の操作に関する正答率が15ポイント以上下回っている。その他目標値を下回っている分野は目標値が50未満のものであり、活用力に課題がみられる。</li> <li>○2 学年：教科の正答率は目標値に対し、2.0ポイント上回り、基礎、活用ともに高い結果となった。内容別では火山が目標値を大きく上回った。</li> <li>○3 学年：教科の正答率は目標値に対し、1.7ポイント上回った。内容別では化学、電気、気象で目標値を下回ってしまっているので、特に2年生の内容の見直しが必要である。</li> </ul>
観点別結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1 学年：すべての観点で目標値、全国平均を下回った。目標値に対するポイント差は5ポイント未満である。</li> <li>○2 学年：すべての観点で目標値を上回った。</li> <li>○3 学年：すべての観点で目標値を上回っているが、ポイント差は3ポイント未満である。</li> </ul>

### 調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 学年：実験、観察を通じた計画や考察を通して、情報分析力を高める。様々な実験器具を扱うことで技能を育成する。
- 2 学年：タブレットや問題集を活用しながら、確認・復習を定期的に行い、基礎の定着を引き続き図る。また、実験の予想、考察なども利用しつつ活用力や表現力等も高めていく。
- 3 学年：単元別での基礎の見直し、思考・判断・表現力、また活用力の育成。

### ( 理 ) 科の授業改善策

- 1 学年：実験、観察を通して、器具を扱う機会を増やす。結果の整理や考察を行う機会を増やし、情報分析の経験を多く積む。意見交換や発表を通して分析の手法や思考の手順を整理させる。
- 2 学年：実験や映像などの ICT を活用し、視覚的な学習から基礎の定着を図る。また、

実験の考察など、自ら考えることで思考力をつけていく。

○3 学年：実験の予想や考察を利用して、思考・判断・表現力を育成していく。また、活用問題などで問題の読解力や応用力をつけていく。